

## 上手に食べるために 2 摂食指導で出会った子どもたち

明海大学客員教授, 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会名誉理事/金子芳洋



B5判 100頁  
定価 3,150円  
(本体 3,000円+税5%)  
医歯薬出版刊  
(2009年3月発行)

近年わが国では、「食べる環境」が変わりつつあり、子どもの“食べる”こととそれに関連するさまざまな事柄に異常がみられるようになってきました。子どもは発達、成長という過程を経て社会化され、その社会の一員となって溶け込み、生活するようになります。その過程で大事なことの多くは、家庭における食事時間に関係しています。ところが、大人の労働環境と少子化の影響で、朝食や夕食をともにせず、孤食（一人で食べる）や個食（食事時間に家族と食を共にするが、自分だけ違った食べ物を食べる）が多くなり、食事時間で養われる人間の社会化という、大切な部分が適切に伸びなくなる現象が起こってきています。最近、「食育」がさかんに叫ばれるようになっていますが、このような、家庭における食事時間のなかで育つ「食べる機能」を中心とした子どもの発達については、親が読んで理解しやすい良書が極めて少ないのが現状なのです。このことに早くから気づいていた著者と菊谷 武先生（日本歯科大学附属病院口腔介護・リハビリ

テーションセンター長）は、そのような「食べる機能の発達」を親にわかりやすく解説した本を2005年に出版し（金子芳洋・菊谷 武監修『上手に食べるために CD-ROM付 発達を理解した支援』2005年、医歯薬出版刊）、その続編が、このたび田村文誉先生によってまとめられ、晴れて刊行されたことを嬉しく思います。

本書の著者である田村先生は数少ない私の弟子の一人で、障害児が抱えている摂食・嚥下障害の評価、治療に、長年にわたって臨床経験を積まれていらっしゃいます。その目線でみた場合、正常児における発達に増して、障害児における摂食機能障害に困り果てている親が多く、その人たちの参考になる本が少ないことにも気がついていらっしゃいました。そこで、障害児における「食べること」の発達遅延に関する数多くの疑問に答えるための“Q & A 的な良書”として出版されたのが、この『上手に食べるために 2』です。

現在、すでにこの領域に携わっている読者、ならびに今後この領域に入ってくる歯科衛生士の数が増えてくることは容易に想像がつく時代に突入しつつあります。本書は、それらの方々の参考となるのはもちろんのこと、それらの歯科衛生士が、摂食機能障害に苦しむ障害児をもつ親に読んでもらうよう勧めて治療の助けとするにはまたとない良書であるとして、ここに推薦文を書いた次第です。

専門家向けの著書は数多く出版されるようになりましたが、患者さんやその世話をする方々に対するこのような指導書が、今後さら